

初年次演習

愛知教育大学 数学教育講座 橋本行洋
岸康弘
市延邦夫

はじめに

大学全入時代と言われて久しい中、何処の大学も教育についていろんな取り組みをしている。そんな取り組みの中に初年次教育がある。初年次教育とは、全国的に行われている大学入学直後の学生を対象に行われる導入期教育であり、高校での受動的な学びから大学で求められる能動的な学びへの学生の態度変容を円滑に進めることを目的としている。

具体的には、ノートの取り方、レポートの書き方、ディベート、文献資料の検索、学生同士や教職員とのコミュニケーションなど大学での学問に必要な知識や技術、大学生に求められる常識・生活態度等を身につけるためのプログラムが組まれている。

愛知教育大学においても初年次教育が2013年度から科目名「初年次演習」として全学的に行われた。ここでは、数学教育講座におけるその初年次演習の概要を紹介する。

初年次演習の概要

- ・初年次演習は1年前期に開講される必修授業である。
- ・授業内容、授業計画・方針等

教育目標：高校での勉学から、大学での自律した学びの姿勢に転換するため、コミュニケーション能力など学生スキル（Student Skills）の修得を図りながら、1年前期に即応した論理的思考方法や情報検索のあり方をはじめとするスタディスキルの修得を目標とする。

授業目標：この講義は数学の一般的な定理を理解するだけでなく、学習と探求に向かう態度、推測し直観しようとする態度、自分自身の問題として解こうとする態度を身につけることを目標とする。特に、天から与えられた問題を決まった手順で解くといった高校までの「算数ドリル」ではなく、頭の使い方の貯蔵庫としての数学という学問に触れ、その本質を体験することを目的とする。大きく分けて、数学の方法、文化、成り立ちについて学習する。すなわち、数学の基礎となる証明の仕方を学ぶ。高校までの数学と大学数学との違いに触れる。また、数学の定義がいかにして生まれるのかを体験する。

授業計画・方法：3名の教員（A：橋本行洋、B：岸康弘、C：市延邦夫）による各5回、計15回の講義+1回の図書館ガイダンスが行われる。詳細は1回目の講義のときに説明する。